

10/15 コンセプト ふれあい歯科五島診療室にて

参加者：五島先生、清水さん、飯塚さん、田中

【前回の振り返り】

・箸そのものではなく、装着タイプが扱いやすく、またコスト面でもメリットがあるのではないか。

⇒

拇趾丘の支えを作るためのものを製作しよう

ボール状のもの⇒スーパーボールをはめてみる 18～30 mmぐらいの範囲

球体であれば可動しやすい支点の効果も見込める。

まずは次回、カッター持参 スーパーボールや球体模型を加工しよう

【今回の活動内容】

実際に球体を既存の箸に装着し、動作の確認含めいろいろ実験する。

用意したもの：発泡スチロールの球体 スーパーボール 粘土

・箸に球体を差してみる。⇒拇趾丘の支えは安定。ただ開閉動作は不安定かつストレスが掛かる。位置を変えても同様。

・ピンセット型箸に着けると安定性向上。開閉動作は確保されているため実用的。

・ちょっとスプーンに差してみた。⇒持ち手位置が確定し、動作も安定。親指の動作に支障がある方でも充分対応できそう。

・発泡スチロールは衛生面でも優れているが、使用するたびに洗うのには不向きか。

スーパーボールに切れ込みを入れて装着すると着脱にもストレスなし。

【次の活動】

・スプーンに装着した際の動作はハクキンで確認してもらおう

・箸についてもあきらめない。安定性と開閉動作の確保を目指す。

次回開催 11/12(火) 20:00～ ふれあい歯科ごとうにて